

大分県立芸術文化短期大学附属図書館

## 図書館だより

No. 37  
2021.Oct.

The Oita Prefectural College of Arts and Culture Library Bulletin



## 表紙作品 『林檎』

竹本 悠斗 (2021年3月 美術科卒業)

私は果物の中でりんごが一番好きです。りんごの美しさそのものを木の素材で表現したいと思い、ツヤや形にこだわり自分なりに仕上げました。レンガ状に並べた木を丸くし、空間（隙間）の開け方で作品に動きを与えました。

## Contents

- ① 先生おすすめの一冊
- ② A V 視聴コーナーへ行こう！
- ③ 学生選書ツアー
- ④ こんな本が新しく入りました
- ⑤ 創立60周年記念事業：附属図書館

# 先生おすすめの一冊



美術科

白石 恵里 先生

## 『目であるく、かたちをきく、さわってみる。』

マーシャ・ブラウン 著 (文と写真)、谷川 俊太郎 訳 931.7/B77

この本は、『三びきのやぎのがらがらどん』の作者として知られるマーシャ・ブラウンさんの3つの写真絵本を1冊に集録したものです。このうちの「目であるく」は、画家であり美術教育者でもある先生に紹介され、それ以後大切にしている本です。

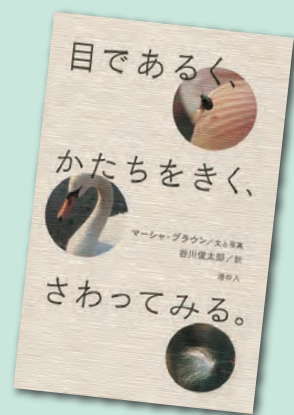
目で対象をじっくり観察し、自分の外の世界を発見していくことや、心を対象に同調させ共感することは、アート表現者だけでなく、すべての人間に必要な資質だと思います。

今まで、多くの子どもたちと美術を通して関わってきましたが、彼らは当たり前のように自分の目で「世界」を歩き、五感を通して「世界」を知り、自分の感じる美しさに出会って行きます。子どもの自由な発想や着眼点を、馬鹿に

して笑いものにする大人の対応に、人知れず傷ついた子どもたちと話す機会も多くなりました。

他者の創造性を認め尊重しあえる社会を構築するには、自分自身が多様な視点を持ち、相手の立場を推し量る配慮・思慮が必要であること、五感で感じ心を豊かにすることの大切さをこの本から改めて学びました。情景を想像しながら、丁寧に時間をかけてこの本に向き合ってもらえたら、あなたの見る「世界」がきっと変化してくると思います。

(しらいし えり/彫刻)



音楽科

石村 華代 先生

## 『新編 教えるということ』

大村 はま 著 374.3/064

折にふれて読み返したくなる本がある。大村はまの講演録『教えるということ』は、私にとってそのような本である。

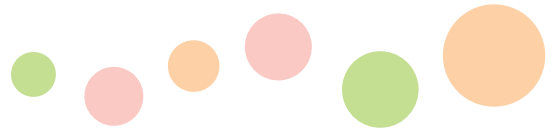
この本と出会ったのは、高校の非常勤講師として初めて教壇に立った頃だった。おしゃべりや居眠りの絶えない教室で、私は、どうすれば目の前の生徒たちが英語に関心を持ってくれるのか、日々、頭を悩ませていた。その時、大村先生は、自分の力を伸ばしたいと思って授業づくりに取り組んでいることこそが教師の資格だと、本をつうじて語りかけてくださった。若き日の私は、教師としての力量は足りな

いけれど、それでも今、切実に成長したいと感じているから「きっと大丈夫」と思った。それから二十年あまり。授業もそれなりに成り立つようになり、学生から感謝されることも多少はある。その時に思い出すのが、この本に書かれた「仏様の指」のエピソードだ。教師の仕事は、仏様の指のようにひそかに作用しなくてはならない。生徒が困難に直面したとき、自分の力でそれを乗り越えたと思えるようにすることが重要であって、「先生のおかげで」と言われているうちは「二流三流」だと肝に銘じるべきだ、というのである。

若い頃に出会った本は「人生の宝物」だと言われることがある。読み返すたびに、異なる輝きを放ち、異なる声を響かせてくれるような本。それはきっと、あなたの人生に彩りを添えてくれるはずである。

(いしむら かよ/教育学)





国際総合学科  
疇谷 憲洋 先生

## 『ポルトガルの海：フェルナンド・ペソア詩選(増補版)』

池上 岑夫 編訳 969.1/P44

狂気なきとき 人間は何であろう  
健康なる野獣  
生殖をくりかえす生ける しかばね 屍 よりほかの

この本は、ポルトガルの現代詩人フェルナンド・ペソア(1898~1935)をはじめて日本に紹介した詩集の増補版です。20世紀初頭、ポルトガルとヨーロッパを覆う不安の時代に生まれた彼は、自己とは何かを常に問いかけ、本名のフェルナンド・ペソアのほかに、「アルベルト・カエイロ」、「リカルド・レイス」、「アルヴァロ・デ・カンポス」など「異名」というキャラクターを創造し(生没年や職業なども設定)それぞれの名前でそれぞれ異なる作風の詩を書き、「知性の抒情詩人」とも呼ばれ、ポルトガルのみならず、アントニオ・タブッキら他のヨーロッパの文学者にも影響を与えました。そんなペソアの多面的な魅力が詰まっている一冊から、異名者「アルベルト・カエイロ」作の一節を。

テージョ川の向こうにはアメリカがあり  
富を見つける人々には富がある。  
だが考えた人は誰もいない、私の村の  
川のむこうにあるものごとを。

わたしの村の川はいかなることも考えさせない。  
あの川のほとりにいる人は あの川のほとりにいるだけ。  
(くろたに のりひろ/文化交流史)



情報コミュニケーション学科  
藤原 厚作 先生

## 『里山資本主義：日本経済は「安心の原理」で動く』

藻谷 浩介、NHK広島取材班 [著] 332.1/Mo82

「主義」という言葉は様々な意味で使われています。社会を大きく変えるような主義もあれば、個人の些細な行動を左右するような小さな主義もあります。私は、天邪鬼なので、人から教えてもらった主義をありがたがって信じるよりも、「ほんまにそうなんか？」と徹底的に疑いまくる主義です(もっとも、この主義を徹底した場合、自分の主義自体をも疑うことになってしまうという矛盾を抱えています…)。なので、この本の「主義」をありがたがって、皆さんにおすすめていたいと思っているわけではありません。

では、なぜこの本を「おすすめの一冊」として紹介したのかというと、「世の中にはいろんな主義(考え)があるんだよ〜!」ということをお伝えしたかったからです。当たり前になっている社会の仕組みや考えを時には疑ってみることも大切だと思います。人との出会いや、本との出会いで、自分の考えがガラリと変わることがごくまれにあります。

本の内容を全く紹介できませんでしたが、この本は「お金」や「地域社会」といったものに対する自分の無自覚な主義(考え)に気付かせてくれるかもしれません。本との出会いを通じて、自分の「主義(考え)」を見つめ直していただければいいな〜、と思います。  
(ふじわら こうさく/地域ビジネス論)





# AV視聴コーナーへ 行こう!



国際総合学科  
山口 祥平先生 おすすめのディスク

## 『グッバイ、レーニン!』

2003年ドイツ (DVD)



技術の進歩、グローバル化、今はこれまで以上に変化の激しい時代となっています。先行き不透明な時代において、自分自身も変化に合わせていかねばなりません。とはいえ、自分を変えていくということは、なかなかたびれます。時代の変化といかに向き合うのか、映画『グッバイ、レーニン!』はそんな問いを若者目線で考えていきます。

映画の舞台は1989年ドイツの東ベルリン地区、時期は共産主義体制崩壊、東西ドイツ統一の前後です。主人公アレックスは映画冒頭で「僕は若さと体力をもてあましていた」と独白するように、自分のエネルギーを政治体制批判にぶつけていました。しかし、母親クリスティアーネはアレックスと真逆の思想の持ち主、完全に社会主義国家を支持しています。本来なら家族内で対立してもおかしくないのですが、アレックスは母親を大事に思うあまり自分の考えを家族に明らかにしません。

映画では、その後訪れる共産主義体制の崩壊と社会変化に翻弄されるアレックスたちの姿を描きます。資本主義の流入とともに少し前までは普通にあったモノたちが、わずか数ヶ月で消えてなくなります。アレックスは母親のために「以前の日常」を取り戻そうとしますが、それには大変な労力を伴います。時代の濁流に抗いながらベルリンの街を奔走するアレックスの姿はどこか滑稽で、物哀しい。常に変わりつづけるベルリンの風景、そして変わらないものを探し求めるアレックス、物語の進展とともに両者のコントラストは際立ってきます。変わらないものを求めるアレックスですが、自分自身は時代の変化に合わせ、人生を謳歌します。変わらない現実も変わっていく現実も、どちらも自分たちが好きに選べば良いのだ、と。その意味で本作品は困難な時代に立ち会う若者たちへのエールともいえるでしょう。

なお、映画の主演をつとめるダニエル・ブリュールはベルリンを舞台としたもうひとつの映画『ベルリン、僕らの革命』にも出演しています。変化を受け入れ、新しい未来を発信するベルリンの街は、欧州の若者たちを魅了します。本作と一緒に変化に富むベルリンの魅力に触れてみてはいかがでしょうか。

(やまぐち しょうへい/文化経済学)



## ナクソス・ミュージック・ライブラリー (NML) を使ってみよう!

NMLはクラシックを中心に230万曲以上を自由に聴ける音楽データベースです。図書館AV視聴コーナーで利用できるほか、自宅のパソコン・スマホからでもサービスが利用できます。ただし、音源のダウンロードは著作権上の問題によりできません。詳しい内容は、図書館カウンターでお尋ねください。



# 学生選書ツアー

学生が図書館に置きたい本を選ぶ、本年度第1回目の「学生選書ツアー」（毎年2回実施）を7月、大分市内の書店で行いました。選んだ本のうち参加者が特におすすめしたいものについてコメントを寄せてもらいました。今回選ばれた計96冊の本は、図書館入口の学生選書コーナーに並べていますので、ご覧になってください。



## 学生選書ツアーに参加して

専攻科造形専攻 2年 松本 奈々

今回のツアーに参加したのは、職員の方に紹介していただいたことがきっかけです。図書館ではよく自己啓発本などを読んでいましたが、多くは男性目線の内容の本だったため共感できるものはさほどありませんでした。

大分県立芸術文化短期大学は、女性の学生数が圧倒的に多く、必然的に図書館の利用者も女性が多いと思います。そこで、今回のツアーでは学生のうちに女性として生きる上で役立つ、女性向けの自己啓発本や生き方の指標が見つかるような本を選書しました。

選書する中で、本屋には読んだことのないジャンルの本や写真集などがたくさんあり、予算内でどの本を選ば

うかとでも悩みました。選べなかった本も今後個人的に読んでいきたいと考えています。

私は図書館には課題制作がうまく進まないこと、就活や将来の不安などを解決するために通い始めました。初めは悩みを解決するために読んでいた本も読書の習慣がついたことで趣味になり、様々なジャンルの本を読みたいと思うようになりました。

私と同じように悩んでいたり変化を求めている人は、ぜひ8名の学生が選んだ異なるジャンルの本を手にとって理解を深めたり発見すること以外にも、本を読む楽しみに繋がればいいなと思います。

## 参加者が特にすすめる本のコメント

専攻科造形専攻 2年 松本 奈々

### 『クソ女(アマ)の美学』

ミンソヨン 著 367.1/Mi35

社会に染み付いた男尊女卑の文化を4コマ漫画で分かりやすく、ユーモラスに描いています。女性の友人や親しい人の相談に乗る際、男尊女卑の現状を知らないで聞くと、知ったうえで聞くとでは大きく異なるので、大切な人を助ける際の判断材料としておすすめの本です。



### 『さよなら、俺たち』

清田隆之 著 367.21/Ki93

著者は恋愛相談を受ける中で集めたデータや相談内容をもとに、男性が持つ性に対して「知らないで済む権利」「無条件に許される権利」など、世の男性が無自覚に手にしている権利に対し苦言を呈している本です。自覚せず相手を傷つけていないか、自分を戒めるのにオススメの本です。



美術科 2年 末廣 光音

### 『MofuMofu=もふもふ』

もの久保 著 726.5/Mo35

この本は、日々の疲れを癒してくれるモフモフで大きな生き物達が80点以上も描かれています。動物好き、ふわふわしたもの好きな人にオススメです。また、かわいだけでなく、絵の1つ1つの画力がとても高く、見ていてまったく飽きない1冊になっています。ぜひ、ヒーリング用に読んでみてください。



### 『世界観の作り方』

有里 著 726.5/Y99

絵・デザイン関連の制作の中で、アイデア出しやコンセプト作りは必至だけど意外と難しい部分でもあります。この本では、そういったデザイン作りの基礎が細やかな解説で、わかりやすく理解できるようになっています。イラストや小説をかくのが好きな人、キャラや舞台設定等でクオリティをより高くしたい人にもオススメな1冊です。



## 専攻科音楽専攻 2年 清水 野の花

### 『イラストで知る発声ビジュアルガイド』

セオドア・ダイモン 著  
767.1/D75

この本は、声を使う人・声について学ぶ人のための解剖学書です。専門的な知識がなくとも、声の基本的な解剖学を丁寧に、平易に1から学ぶことができます！大きなイラストとフルカラーが特徴で、初学者にも取っ付きやすい内容でした。正直、声楽科以外の人を読むことはないと思いますが、声楽の人は読んでおいて損は全くないと思います！



### 『死せる菩提樹： シューベルト《冬の旅》と幻想』

梅津時比古 著  
767.3/U74

「あの夜の闇なかの菩提樹は、その後どうなっているだろうか。」これは、本書の冒頭に書かれている言葉です。この提示された疑問を、筆者が示した10の謎に沿って解き明かしていきます。至宝の名作である連作歌曲《Winterreise》には数多くの関連書籍があり、様々な名著が出版されていますが、この本は内容が長大でないで身構えず、気軽に手に取っていただきたいです。そして、ぜひ《Winterreise》の素晴らしい世界観を共有しましょう。



## 音楽科 1年 松本 美月

### 『魔女たちは眠りを守る』 村山早紀 著 913.6/Mu62

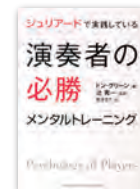
人間と魔女の不思議なお話が詰まった短編集です。魔女たちは人間より寿命が長く魔法も使えるのでひっそりと暮らしていますが、優しい人や心が綺麗な人には少しだけ魔法を使って助けてあげます。疲れているときや忙しいときに読むと、すっと心が軽くなるような温かい本です！



### 『ジュリアードで実践している 演奏者の必勝メンタルトレーニング』

ドン・グリーン 著  
761.9/G82

「本番で100%の力を出す」ということはとても難しいことだと思います。この本では緊張との付き合い方や不安の対処法、呼吸法など本番で最高のパフォーマンスをするための対策が詳しく書かれています。本番で緊張してしまう、自分の演奏に自信が持てないという方にぜひ読んで欲しい1冊です！



## 国際総合学科 1年 永田 悠星

### 『数学ガールの秘密ノート 学ぶための対話』

結城浩 著  
410.4/Y97

$y = x$  が何を表しているのか、正しく理解している人はどのくらいいるだろうか。テストで高得点を取ることを目的としていた学びを一つ一つ理解して、知識ではなく知恵に繋げることを目的とした学びに変えてみてはどうか。きっと、忘れていたなにかを取り戻すことができるだろう。



### 『わたしの身体はままならない』

石田祐貴[ほか] 著  
369.27/I72

倫理／暴力のかりそめの二項対立、綿密に社会に織り込まれ、厳然とリアリティをもって迫ってくる。この操り人形製造工場で試験体として生まれてきた我々は、幸せを望むならば倫理に反し暴力に抗い「考える」ことが求められる。この社会の仕組み理解のために、自ら学んでゆこう。



## 国際総合学科 1年 一瀬 悠太

### 『最先端研究で導きだされた 「考えすぎない」人の考え方』

堀田秀吾 著  
159/H96

私は近頃、この先の就活や人生についてよく悩む事が多く、悩んでも何も変わらないと分かっているにも時間を無駄にってしまう事が多いです。この本にはそういった無駄な悩みに時間をかけないようにするにはどうしたらいいか？といった内容が書かれており、この先の人生に非常に役に立つ内容だと思いました。



### 『ザ・コピーライティング』

ジョン・ケープルズ 著  
674/C16

短大に入学してからレポートなどを作成する機会が多くなり、「題名」や「短くて伝わりやすい文章」などを考える事が増えました。この本にはそういった題名やキャッチコピーのセンスの良い作り方や法則が書かれています。この本を読んで、あなたも心の琴線に触れる言葉を考えてみてはいかがでしょうか？

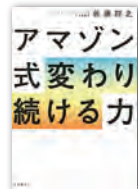


## 情報コミュニケーション学科 2年 野仲 亨

### 『アマゾン式変わり続ける力』

佐藤将之 著  
673.36/Sa85

「なぜコロナ禍でもアマゾンは収益を伸ばし続ける事ができるのか？」そう思い手に取ったこの本を読んで気づいた。それは、いかなる時でも「最もお客様を大切にしている企業」という軸からブレずに「世界一失敗してきた」からであった。自身に置き換えても、過去の失敗や経験はいつか実を結ぶと信じる事が大事だと学んだ。



### 『奇跡の人ヘレン・ケラー自伝』

ヘレン・ケラー [著]  
289.3/Ke32

「もし視覚・聴覚が失われた世界で生きる事になったら」と考えた事があり、ヘレン・ケラーの自伝を手に取った。光も音もない空白の世界の中で、多くの困難にも逃げず努力した本人の苦しい日々が描かれている。何事も様々な経験をした人の話には価値があり、それを知ればきっと何気ない日々で感謝できる人間になれると気付いた。



## 情報コミュニケーション学科 2年 一丸 莉穂

### 『風よ僕らの前髪を』 弥生小夜子 著 913.6/Y67

単なるミステリー小説だと思い込んで読み始めましたが、犯人を捜すということよりも、なぜ犯人が犯行に及んだのかというところに注目しており、導き出された真相と真実は悲しいものでした。人間関係が紐解かれていく過程の先が読み進めるたびに気になっていくような作品でした。



### 『子どもの本のもつ力：世界と出会える60冊』

清水真砂子 著  
019.5/Sh49

清水真砂子さんが子どもたちに贈りたい60冊の本を紹介している作品です。その中で、意味を持たなくても本を読んで「楽しい」と感じるだけでも十分であるとあり、生きる喜びと人々への信頼について、多くの本を通して学ぶことに改めて気付くことができました。



# こんな本が新しく入りました

2021年4月～8月までの新着図書の中から学科の先生が選んだ資料を中心に一部ご紹介いたします

学科	図書ラベル	書名	学科	図書ラベル	書名
美術科	151.5/I89	「利他」とは何か 伊藤亜紗編；中島岳志 [ほか著]	音楽科	375.76/N94	クラシック名曲のワケ：音楽授業に生かすアナリーゼ 野本由紀夫著
	319.8/O46	なぜ戦争をえがくのか：戦争を知らない表現者たちの歴史実践 大川史織編著		539.091/Ko24	原発の倫理学 古賀茂明著
	589.2/A92	言葉と衣服 蘆田裕史著		810.4/Su96	閉された言語・日本語の世界 鈴木孝夫著
	727/N34	仲條 = NAKAJO 仲條正義著		B4.28/Ba/OT	Partita für Oboe Solo, BWV 1013 ; Sonate für Oboe Solo, Wq. 132/H 562 J.S. Bach C.P.E. Bach
	757.3/N71	カラーデザインの教科書：カラーマイスターと一流イノベーターに学ぶ 日本カラーマイスター協会著		B4.519/Gol'E/CF	Practical studies for the trumpet Edwin Franko Goldman
	772.1/Su27	2.5次元文化論：舞台・キャラクター・ファンダム 須川亜紀子著		B7.1/Ger/WB	Rhapsody in blue George Gershwin
	910.26/Ta87	文豪たちの西洋美術：夏目漱石から松本清張まで：カラー版 谷川渥著		B7.1/Rak/IMC 1/2-2/2	Suite no. 2, opus 17, for two pianos, four hands Rachmaninoff
国際総合学科	007.3/F82	AIの法律と論点 福岡真之介編著	情報コミュニケーション学科	007.6/A19	良いコードを書く技術：読みやすく保守しやすいプログラミング作法 縣俊貴著
	114.2/N29	誰も教えてくれなかった死の哲学入門 内藤理恵子著		141.51/B71	動機づけと認知コントロール：報酬・感情・生涯発達の見点から T.S. プレイバー編著
	135.2/Ko45	はじめてのスピノザ：自由へのエチカ 國分功一郎著		318.7/I75	アフターコロナの都市計画：変化に対応するための地域主導型改革 石井良一著
	319.1/H77	「日韓」のモヤモヤと大学生のわたし 一橋大学社会学部加藤圭木ゼミナール編		507/H79	社会人・技術者倫理入門：大学の学びガイド 比屋根均著
	336.2/W68	アートシンキング：未知の領域が生まれるビジネス思考術 エイミー・ウイテカー著		780.19/H56	スポーツする人の栄養・食事学 樋口満著
	689/H55	スポーツツアーズ入門 ジェームス・ハイアム、トム・ピンチ著		860/H75	大学1・2年生のためのすぐわかるスペイン語 廣康好美、ホセファ・ピバコス著
	801.019/Ko12	ことばのデータサイエンス 小林雄一郎著		778(J)/Te	天外者(てんがらもん) [映像資料] 田中光敏監督；三浦春馬[ほか]出演
図書館	019.9/H89	読書大全：世界のビジネスリーダーが読んでいる経済・哲学・歴史・科学200冊 堀内勉著	図書館	674/Ma35	広告がなくなる日 牧野圭太[著]
	121.6/Y24	日本哲学の最前線 山口尚著		761.14/L57	音楽好きな脳：人はなぜ音楽に夢中になるのか ダニエル・J・レヴィティン著
	361.7/Ta84	関係人口の社会学：人口減少時代の地域再生 田中輝美著		816.5/Sa13	レポート・論文をさらによくする「引用」ガイド 佐渡島紗織 [ほか]著
	465.8/Mi89	京大おどろきのウイルス学講義 宮沢孝幸著		933.7/I73	クララとお日さま カズオ・イングロ著、土屋政雄訳

## 図書館職員注目の一冊

### 『スマホ脳』

アンデシュ・ハンセン 著  
491.371/H29

スマホ依存は良くない。分かっちゃいるけどやめられない。では具体的に何故、どのように脳(心の動き)に悪いのかを膨大な研究データから弾き出し、心身の健康を回復するためのスマホやSNSとの付き合い方について書かれた本です。皆さんも一度、スマホとの付き合い方を見直してみませんか。(さんのみや)



### 『「文章術のベストセラー100冊」のポイントを一冊にまとめてみた。』

藤吉豊、小川真理子 著  
816/F68

本書は、文章術の名著に共通するノウハウをランキング化したものです。文章力が向上する基本の「7つのルール」とテクニックはもちろん、プロ級の記事力が身につく「文章を書くための準備や心構え」についても、すぐに実践できるように実例も多く紹介されています。職業・年齢・目的を問わず、重宝する1冊です。(いわもと)



### 『退屈をあげる』

坂本千明 著  
911.56/Sa32

猫好きな人もそうでない人も、ぜひ読んでほしい1冊です。言葉は多くなく版画のイラストもシンプルですが、野良猫だった「あたし」の「退屈な日々」が、素っ気なくも温かい言葉で語られています。声に出して読むとさらに愛おしさが増し、限られた時間の大切さを思わずにはいられません。(うじま)



### 『桃太郎は盗人なのか? : 「桃太郎」から考える鬼の正体』

倉持よつば 著  
388.1/Ku53

「図書館を使った調べる学習コンクール」文部科学大臣賞を受賞した小学5年生の自由研究を単行本化したもの。著者の着眼点と飽くなき探究心、そして論文の完成度の高さに驚かされます。また、司書をはじめ関係者の皆さんのレファレンス能力や、アーカイブズの重要性にも気付かされる1冊です。(はさま)



# 大分県立芸術文化短期大学 創立60周年記念事業 附属図書館

## 1. 過去と未来をつなぐ本たち

### ◆ 芸文短大60周年の歩みを振り返る



“過去と未来をつなぐ本たち”

「芸文短大60周年のあゆみを振り返る」を開催しました。

〈期間〉 2021年6月18日(金)～8月20日(金)

本学教員・卒業生の著作物、過去の周年記念誌などの図書館資料の展示を通じて、60周年の歩みを振り返る企画です。この企画が芸文短大への興味・関心を深めてもらう機会になればという思いを込めて考案しました。活躍する卒業生の著作を読んだ学生から「同じ大学で学べて、とても嬉しい！」との感想が寄せられたり、熱心に閲覧する学生の姿が見られました。

### ◆ 教職員おすすめ本60冊



“過去と未来をつなぐ本たち”

「教職員おすすめ本60冊 ～学生時代に読んでほしい本～」を開催しました。

〈期間〉 2021年10月1日(金)～12月24日(金) (予定)

図書館所蔵の図書の中から教職員が選んだ学生時代に読んでほしい本60冊を紹介する企画です。推薦者自身が学生時代に読んで感動した本、影響を受けた学問の専門書、未知の世界へ導いてくれる本、ピンチをチャンスに変える視点を与えてくれる本など、学生の皆さんのこれからの人生と心を豊かにしてくれる言葉とたくさん出逢える本が選ばれています。この60冊は全て貸出できますので、おすすめコメントとあわせて、ぜひお楽しみください。

## 2. 図書館スタンプで本(ボン)!



「図書館スタンプで本(ボン)！」を開催しました。

〈期間〉前期：2021年7月19日(月)～8月10日(火)

後期：2021年9月21日(火)～10月29日(金)

当館キャラクターの「ほん太」を使用したオリジナル不織布バック(図書館初のグッズ)を制作し、来館や貸出等でスタンプを集めた学生に配布するという企画です。スタンプカードには、当たりくじも付いており、当選者には景品もプレゼントされました。初日から参加者も多く、不織布バックのデザインも「可愛い」と好評でした。

## 3. 古くて新しい音楽空間へようこそ



「古くて新しい音楽空間へようこそ」と題し、図書館をくつろぎ空間としても利用してもらうレコード演奏会を企画しました。

〈期間〉 2021年10月～12月：毎週火・木曜日開催

図書館所蔵のレコードの中から教職員が選んだレコードにコメントをつけて展示、図書館入口で定期的に流しました。若い世代の音楽ファンも注目するアナログレコード。そのウォームな音を実際に聴いてもらえる機会となったと思います。今後も、学習や本の貸出だけではなく、図書館の空間そのものを楽しんで利用してもらえると嬉しいです。

本や楽譜などの資料の  
購入リクエストはMyOPACの  
購入希望 から受付しています!

ただし、ライトノベル等当館の収書方針に合わない  
資料は購入を見合わせています。

まずはリクエストを送ってみてください!



ほん太

大分県立芸術文化短期大学附属図書館  
図書館だより No.37

発行日 2021年10月25日発行  
編集・発行 大分県立芸術文化短期大学 附属図書館  
〒870-0833 大分市上野丘東1番11号  
TEL・FAX (097) 545-4235  
<http://www.oita-pjc.ac.jp/library/>  
図書館キャラクターデザイン：若杉郁子